

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①地域との交流や地域への貢献を目的とした活動や行事等に生徒の80%以上が満足している。	活動に主体的な参加ができるよう、活動目的を明確に指導する。また、生徒の興味・関心が高められるよう工夫し活動の充実を図る。農業クラブ活動をはじめ、各種大会やコンテストの意義や目的などを理解させ、専門部の活性化につながるよう、継続的な指導を心がける。	A	A	今後も主体的に活動に取り組めるよう、活動の意義を理解させ、実践していく。	A	A	数多くの活動を実施しているが、目的をしっかりと意識させるとともに、内容の精選を図りたい。
		②県農業クラブ連盟各種発表会・各種競技大会や各種のコンクールなどで3種目以上入賞する。		―	―	―	―	―	各専門部の継続的な活動を実践するとともに、研究活動の意義を認識させる。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	①「授業が分かりやすい」と70%の生徒が答えている。	授業やシラバスを見直し、授業改善や教材研究に取り組むとともに、職員研修の充実を図り、生徒が意欲的に取り組む魅力ある授業を展開する。基礎学力を着実に定着させることを目的とした教材の精選、指導法の改善に取り組み、生徒が成果を実感できる学習形態を設ける。	A	A	引き続き、基礎的な学力の定着に向けた分かりやすい授業展開に努め、教材研究や職員研修に積極的に取り組み、生徒が分かる喜びを実感できる授業を実践する。生徒が基礎学力の定着を実感できる手立てを実践するとともに、「朝学習の時間」の効果や学び直しの必要性を再確認する。	A	A	生徒の実態にあった教材の選定、授業展開を検討するとともに定期試験や小テストにおいて、学習の成果を実感し、意欲的な学習に取り組む態度を育成する。「朝学習の時間」の目的を明確にし、学び直しや基礎学力の定着が進路実現に重要であることを認識させる。
		②「朝学習の時間」等により基礎学力が向上したと実感する生徒が70%以上である。		A	A	―	―	―	―
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	①各種資格・検定を受検した生徒が80%以上である。	生徒・保護者に資格取得のメリットを伝えるとともに、各教科やコース等で知識や技術の深化や進路に関連つけた取り組みを行う。	B	―	様々な機会を捉え、資格取得による成果や有利性等を伝え、生徒が積極的に資格取得に取り組むように働きかけを行う。	B	B	「自分の生き方と将来の職業」を考えるうえで、資格を取得することがより具体的なビジョンの創造に繋がることを理解させ、積極的に資格取得や検定にチャレンジする態度を育てる。協働学習や地域交流活動等をおこなって、学びを実感するとともに学習成果により自己有用感を高めることができる授業を実践する。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	①職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に2回以上実施している。	定期的な学年と教科担当との情報交換を行い、きめ細やかな生徒の状況把握に努める。職員会議・学年会議の議題として情報交換を実施し、情報を共有して組織的な指導につなげる。教育相談の取り組みを連絡メールで送信するなど周知する。「教育相談だより」の内容と発行回数を見直し生徒及び保護者にとって関心が高められるようなものにする。スクールカウンセラーの講義を職員・生徒に実施してスクールカウンセラーを有効活用する。いじめ防止に向けた生徒主体の取り組みを実施する。いじめを絶対に許さない雰囲気を学校全体に広めるために生徒・保護者・職員にいじめ防止基本方針を周知する。	A	―	各クラスの情報交換を職員会議で行っている。小さなことでも報告し合える環境にするために、学年・教科・コース等の細かな情報交換を実施して、生徒の状況把握に努める。	A	―	職員会議において、生徒の情報交換を月一回、学年会議などでも情報交換の機会が増えてきている。さらにきめ細やかな指導や組織的な指導を目指して授業担当との情報交換を充実させたい。スクールカウンセラーの認知度は上昇しているが、利用件数は少ないので、生徒への声掛けや面談を通してカウンセリングの呼びかけを継続したい。相談体制も再点検し、生徒に「見える」相談体制を今後も目指す。
		②教育相談体制やスクールカウンセラーの活用等に、生徒の70%が満足している。		B	B	ズグニルカウンセラーの活用について相談日よりなどで周知し、職員に対しても積極的な活用を推進する。生徒の日常の様子とアンケートなどの結果を、個々に適した指導に活かすように努め、カウンセラーや専門機関との連携を図る体制を目指す。	B	B	―
		③いじめの未然防止に努め、いじめ解消率が100%である。		A	A	生徒主体の活動により、いじめ防止活動を実践する。生活アンケートの結果を踏まえ、面談週間を通して生徒個々の状況を把握する。	A	A	生徒が主体的な取り組みであると実感できるいじめ防止活動を実施する。いじめを絶対に許さない雰囲気をさらに学校全体に広げ、職員が未然防止・早期の組織的対応に努める。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	①1日の平均遅刻者数が3名以下である。	スマートフォン利用による睡眠時間の減少なども考えられるため、保護者との連携を強化して、生活習慣の向上を目指す。また、段階的な遅刻防止指導を継続して行い、組織的な指導により改善に努める。教務や進路指導・生徒クラブと連携して、欠席減少の意義を理解させる。また、欠席者に対して個々の原因究明に取り組み、対策を考え、減少を図る。	A	―	遅刻・欠席者それぞれの原因を究明する。保護者との連携を強化し、家庭での生活習慣の改善と学校での意欲的な取り組みにつながる環境作りを引き続き行い、遅刻や欠席の減少に努める。段階的な指導を徹底するとともに職員全体で欠席・遅刻防止についての指導を重点目標として認識し、今後の進路・社会生活に重要である事を再認識させ、個別の指導にあたる。	B	―	長期欠席者に対し、教育相談係やスクールカウンセラーを活用した生徒理解と原因究明に取り組み、専門機関等とも連携し、減少を図る。また、保護者との連携を強化し、協力体制を構築する。進路指導と関連させ、将来的な欠席・遅刻防止の意義を理解させるなど多方面からの組織的な指導を行い、改善に努める。
		②欠席率が2.3%以下である。		B	―	―	―	―	―
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 計画的な指導を行っていますか。	①学校から提供される進路情報や進路関係行事等が進路を考えるうえで役立っていると評価する生徒が70%以上である。	最新情報の収集・提供、個々の生徒の状況に応じた進路相談、キャリア教育の視点に立った各学年の進路ガイダンスを充実させる。生徒の状況・実態に即した進路学習を行う。	A	A	進路ガイダンスの内容および事前・事後指導について工夫し、将来の進路について具体的に考えさせる。	A	A	各企業や外部機関との連携によって得た情報等を共有しやすくするための方法を検討する。また進路行事や進路学習の内容や実施時期について、キャリア教育の視点からさらに検討する。
		②LHR等で10時間以上進路学習を行っている。		A	―	2学期以降は、1.2年生にも積極的に情報提供を行う。	A	―	―
		③自己の生き方と将来の職業の関連について考えている生徒が70%以上である。		C	B	適性検査や基礎力診断テストの結果等の活用方法について検討し、自己理解を深めさせる。	B	B	ガイダンスのあり方や適性検査・基礎力診断テストの結果等の活用方法について検討し、更に自己理解を深めさせる。また、保護者と連携した指導を目指す。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	②目標とした進路を実現できた生徒(3年生)が90%以上である。	生徒理解に努め、個々の生徒の適性や家庭状況に即した進路指導を行う。	―	―	企業や上級学校の情報を積極的に収集し、生徒や保護者に提供する。	A	―	個別の生徒の事情や適性に応じた進路実現のために、学年との情報交換を密にし適切に対応する。
		①PTA総会、学年保護者会等に参加している保護者が、60%以上である。	公開授業や学年保護者会の充実を図るとともに、専門高校としての特色が生かせるような企画を立案する。マスメディアやWebページを有効に活用して、PR活動を積極的にすすめる。また、保護者の学校行事への参加を促すため、連絡メールを適切に活用する。	B	B	今後も保護者が教育活動に関心を持てるようPTA係・本部役員とも協力し合いながら行事等を検討する。	B	B	学校評価アンケートをもとにPTA役員、学年委員と情報交換し、保護者が参加しやすい内容等を検討する。
		②「T学校の様子がよく分かる」と評価する保護者が70%以上である。		A	A	多くの保護者が、本校の活動や取り組みなど理解しているため、今後も継続的な情報発信と、学校行事への積極的な参加を促す。	A	A	今後もWebページ、連絡メール、マスメディア等を積極的に活用し、継続的に情報発信を進める。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	8 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	①PTA総会、学年保護者会等に参加している保護者が、60%以上である。	公開授業や学年保護者会の充実を図るとともに、専門高校としての特色が生かせるような企画を立案する。マスメディアやWebページを有効に活用して、PR活動を積極的にすすめる。また、保護者の学校行事への参加を促すため、連絡メールを適切に活用する。	B	B	今後も保護者が教育活動に関心を持てるようPTA係・本部役員とも協力し合いながら行事等を検討する。	B	B	学校評価アンケートをもとにPTA役員、学年委員と情報交換し、保護者が参加しやすい内容等を検討する。
		②「T学校の様子がよく分かる」と評価する保護者が70%以上である。	公開授業や学年保護者会の充実を図るとともに、専門高校としての特色が生かせるような企画を立案する。マスメディアやWebページを有効に活用して、PR活動を積極的にすすめる。また、保護者の学校行事への参加を促すため、連絡メールを適切に活用する。	A	A	多くの保護者が、本校の活動や取り組みなど理解しているため、今後も継続的な情報発信と、学校行事への積極的な参加を促す。	A	A	今後もWebページ、連絡メール、マスメディア等を積極的に活用し、継続的に情報発信を進める。

